

和歌山県内経済情勢報告

(令和2年10月判断)

1. 総論「県内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる」(判断を上方修正)

【総括判断】

項目	前回(2年7月判断)	今回(2年10月判断)	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、足下では下げ止まりの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる	↑

(注) 2年10月判断は、前回7月判断以降、10月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は足下では下げ止まりの動きがみられる。雇用情勢は新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっているなど、全体としては新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

【各項目の判断】

項目	前回(2年7月判断)	今回(2年10月判断)	前回比較
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、足下では持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、持ち直しつつある	↑
生産活動	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、足下では下げ止まりの動きがみられる	↑
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	→
設備投資	2年度は前年度を上回る見込み	2年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	2年度は増益見込み	2年度は減益見込み	↓

【先行き】

先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響が続くなかで、各種政策の効果等もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ **個人消費** 「新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、持ち直しつつある」

百貨店・スーパーは、感染症の影響による外出自粛等により衣料品等が低調となっているものの、靴等の身の回り品が持ち直しているほか、食料品においても、引き続き巣ごもり消費等が堅調となっており、全体としては持ち直しつつある。

コンビニエンスストアは、感染症の影響による外出自粛や在宅勤務の定着により来店客数が減少しているものの、冷凍食品等のまとめ買いにより買上点数が増加したこと等から客単価は上昇しているほか、観光地にある店舗において客数・売上が戻りつつあるなど、緩やかに持ち直しつつある。

ドラッグストアは、感染症の影響により、引き続き冷凍食品やパスタ等の巣ごもり関連商品が好調となっている。

家電大型専門店は、感染症の影響により、在宅勤務関連商品のほか、調理家電や健康家電等が好調となっている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通・小型車、軽自動車ともに前年を下回っているものの、新車投入等により市場が動き始めており、緩やかに持ち直しつつある。

観光動向は、県内主要観光地において、観光客数は前年を大幅に下回り厳しい状況が続いているものの、足下で国内観光客数に持ち直しの動きがみられている。

(主なヒアリング結果)

- 身の回り品については、特別定額給付金の影響からか特選ブランドがよく売れたほか、女性用ハンドバッグやアクセサリ一類もまずまずであった。一方で、衣料品は、感染症の影響による来店客数の減少により、アパレル店舗が閉鎖したため低調となっているほか、8月前半の感染症の再拡大に加え、夏休みの短縮等によりお盆に帰省する人が少なかったことから、土産需要がなく来店客数も減少した。(百貨店・スーパー)
- 前期ほどではないものの、巣ごもり関連商品を中心に好調。来店客数は減少しているが、1回あたりの買上点数が増加していることから客単価も上昇しており、来店客数の減少を客単価で補っている。(百貨店・スーパー)
- 8月以降気温が高く推移したことなどからアイスなどの夏物商材が伸長したほか、外出自粛の影響からかプチ贅沢商品の売れ行きが良い。また、足下では近隣旅行の回復もあって、一部観光地の店舗において客数や売上が戻りつつある。(コンビニエンスストア)
- 売上、客単価及び買上点数が増加しており好調。外出自粛の影響から来店回数が減少しているものの、まとめ買いにより1回あたりの買上点数が増加している。(ドラッグストア)
- 7月までは特別定額給付金の影響からテレビや冷蔵庫等の大型家電がよく売れた。現在は、調理家電や健康家電等がよく売れている。(家電大型専門店)
- 緊急事態宣言解除後、自粛していた各種イベントを再開したことや新車投入により市場が動き始めている。(自動車販売店)
- 「Go To トラベルキャンペーン」や「わかやまりフレッシュプラン」を利用した少し贅沢な旅行が増えているほか、9月の連休は天候に恵まれたこともあってか旅館は満室になるなど宿泊客数は回復しつつある。(観光関係団体)

■ **生産活動** 「新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、足下では下げ止まりの動きがみられる」

機械工業は、感染症の影響による世界的な需要の減少等により、はん用機械及び生産用機械において、生産量が減少しているものの、足下では、はん用機械において、感染症の影響により停止していた国内の設備投資に動きがみられることから、全体としては下げ止まりの動きがみられている。

化学工業は、家庭用向け製品を中心に引き続き堅調となっている。

鉄鋼業は、感染症の影響による世界的な経済活動の停滞により、エネルギー関連製品の需要が落ち込んでいるなど引き続き弱さがみられるものの、足下では自動車関連製品の需要が持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 今期の売上は、前年同期比で7~8割程度となっている。感染症の影響で設備投資を必要最低限に抑える動きがあることから、当社の主力製品の需要が減少しているものの、足下では設備投資に動きがみられている。(機械工業)
- 今期の生産量は、工場全体としては例年並みとなっているが、感染症の影響により、消毒液やハンドソープの生産量は増加する一方、ホテルのアメニティ等で使われる業務用のシャンプー等の生産量は減少するなど、商品によっては大きな増減がみられる。(化学工業)
- 感染症の影響による世界的な経済活動の停滞により、取引先からの需要が減少し、稼働率は低下している。一方、自動車製造の回復が鮮明となっており、足下では出荷量が増加している。(鉄鋼業)

- **雇用情勢** 「新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている」
有効求人倍率は、感染症の影響により低下している。また、新規求人数は、足下では増加に転じているものの、増加率は低く、雇用情勢は弱い動きとなっている。

(主なヒアリング結果)

- 緊急事態宣言が解除され、営業を再開する企業が増えたことなどから、6月は新規求人数が大きく増加したが、感染症再拡大の影響により、7月は再び新規求人数が減少した。(公的機関)
- 生産量の減少に伴い人手は過剰気味。月2日の一時休業は前期から継続中であり、下期以降も実施予定。(鉄鋼業)
- 過不足なく適正。人員は他業態から流れてきているため、募集をかければ集まる。(百貨店・スーパー)

- **設備投資** 「2年度は前年度を上回る見込み」

法人企業景気予測調査(令和2年7~9月期調査)でみると、2年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。産業別では、非製造業で前年度を下回る見込みとなっているものの、製造業で前年度を上回る見込みとなっている。

- **企業収益** 「2年度は減益見込み」

法人企業景気予測調査(令和2年7~9月期調査)でみると、2年度の経常利益は、全産業で減益見込みとなっている。産業別では、製造業で増益見込みとなっているものの、非製造業で減益見込みとなっている。

【その他の項目】

- **住宅建設** 「前年を下回る」

新設住宅着工戸数(3ヶ月後方移動平均値)でみると、前年を下回っている。内訳でみると、持家、貸家、分譲の全てで前年を下回っている。

- **公共事業** 「前年を上回る」

前払金保証請負金額(年度累計額)でみると、前年を上回っている。内訳でみると、市町村で前年を下回っているものの、国、県、独立行政法人等で前年を上回っている。

- **企業倒産** 「倒産件数、負債総額ともに前年を上回る」

倒産件数、負債総額ともに前年を上回っている。

- **景況判断** 「「下降」超となっている」

法人企業景気予測調査(令和2年7~9月期調査)の景況判断BSIでみると、全産業で「下降」超となっている。

産業別は、非製造業では「上昇」と「下降」が均衡しているものの、製造業では「下降」超となっている。

規模別は、大企業では「上昇」超となっているものの、中堅企業、中小企業では「下降」超となっている。

連絡・問合せ先 和歌山財務事務所 財務課 Tel: 073-422-6142